



# Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

## 評価報告書

南太平洋フォーラム漁業機関 (FFA)  
 — 2022 年度 国際資源管理対策推進事業 —  
 (終了時評価 2023 年 4 月)

### 事業概要

国名	南太平洋フォーラム漁業機関 (FFA)
プロジェクト名	まぐろ産業アドバイザー (国際資源管理対策推進事業)
実施期間	2022 年 4 月 1 日 (延長確認書署名) ~ 2023 年 3 月 31 日
相手国政府覚書署名省 庁名及び実施機関	署名機関: 南太平洋フォーラム漁業機関 (FFA) 実施機関: FFA 事務局

### プロジェクト実施の経緯と背景

公益財団法人海外漁業協力財団 (以下「財団」という。) は、南太平洋フォーラム漁業機関 (以下「FFA」という。) からの要請を受けて、1989 年から FFA 事務局に対して専門家 (海外情報員、漁業アドバイザー、まぐろ産業アドバイザー) を派遣している。

2008 年 5 月にはまぐろ産業アドバイザーが FFA の「中西部太平洋における日本と FFA の互恵的協力関係を推進する資金」の資金管理者を兼務する合意書の改正が行われ、現在はこの合意書並びに FFA からの毎年の派遣延長要請に基づき海外漁業協力強化推進事業の枠組みの下、専門家を派遣している。



## 目標・成果・活動内容等

上位目標	日本と FFA メンバー17 か国・地域（以下「FFA 加盟国」という。）との漁業協力関係の一層の強化
プロジェクト目標	FFA 及び FFA 加盟国が実施している種々の事業の効果的・効率的実施
成 果	専門家が収集・分析・提供した情報及びこれらに基づく助言により、メンバー国のかつお・まぐろ産業の振興に繋がる方策が FFA 事務局内で検討され、FFA の活動にフィードバックされた。
活 動	<p>① FFA 加盟国のかつお・まぐろ産業を含む自国水産業の開発・投資促進に関する助言及び情報提供</p> <p>② FFA 加盟国のかつお・まぐろ漁業の資源管理に関する助言及び情報提供</p> <p>③ FFA 加盟国の国際的な義務（地域漁業管理機関の管理措置を含む）の履行にあたっての助言及び情報提供</p>
投 入	<p><b>財団側</b></p> <p>1) 専門家 計画：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日（365 日） 実績：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日（365 日） （計画対比：100%）</p> <p>2) 主な資機材 なし</p> <p><b>相手国側</b></p> <p>1) 主なカウンターパート Deputy Director-General</p> <p>2) プロジェクト関連予算、土地、施設等 FFA 事務局施設（ホニアラ）</p>

## 評 価 事 項

### ◆ 妥 当 性

#### 1. プロジェクトの妥当性

FFA は域内全体及び FFA 加盟国の発展のため、域内の海洋生物資源、特にマグロ類のような高度回遊性魚類の保存と最適利用を通じてそれら資源からの恩恵を最大化することを目

的としている。このことから専門家が FFA 事務局に対して行うまぐろ産業に関する指導・助言は、妥当と判断される。

## 2. 協力ニーズ（対象国、対象地域）との整合性

専門家による FFA 加盟国のかつお・まぐろ産業を含む水産業の発展、資源管理等に係る助言及び情報提供は、FFA からの要請を受けてその目的に沿った形で実施されていることから、FFA のニーズに合致している。

## 3. 環境に対する配慮はなされていたか

専門家の活動は、域内及び FFA 加盟国における水産資源の持続的利用を目的としており、環境に対して新たな負荷をかけるものではない。

## 4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

専門家の活動は、域内及び FFA 加盟国における水産資源の持続的利用を目的としている。さらに、活動の一環として瓶詰まぐろプロジェクトなど、漁獲の増加でなく漁獲物の有効利用を図る取り組みにも力を入れたことから、水産資源に対する配慮は十分なされていた。

## 5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

# ◆ 効 率 性

## 1. 事業費及び実施期間

事業費はほぼ予算額どおりとなり、実施期間は計画どおりとなったことから効率性は高いと言える。

## 2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

専門家はタイミングよく投入され、活動項目に沿って活動し、期待された機能及び能力を発揮した。

## 3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

働きかけや助言は、常に FFA 事務局や FFA 加盟国関係者とコミュニケーションを密にしながら行ったことから、事務局やそれぞれの国の水準に適合していた。

## 4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、専門家を含む FFA の国際スタッフの多くが事務局のあるソロモンからそれぞれの母国に帰国したが、その間もリモートワークとスタッフ間のオンライン会議により業務が継続された。

## 5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

世界的な新型コロナウイルス感染症拡大に伴いソロモン諸島政府は 2020 年 3 月に非常事態宣言を発令し、段階的に出入国規制を強化したものの、2022 年 7 月に渡航制限は解除され、事前の入国許可申請や入国後検疫隔離は不要となった。

## ◆ 有効性

### 1. プロジェクト目標の達成度

#### ① プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：FFA 及び FFA メンバー国が実施している種々の事業に対して効果的・効率的な実施に必要な助言及び情報提供を行う。

コロナ禍にあっても可能な範囲で FFA 及び FFA 事務局が実施している活動に対して助言を行い、専門家自身も FFA の活動の中に瓶詰まぐろプロジェクト（後述）を立ち上げ、更にはオンラインや対面により国際会議やワークショップに参加し、情報収集や関係者との意見交換を行った。

#### ② その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

前述のとおり新型コロナウイルス感染症の影響を受け、FFA が策定した活動の実施に支障が生じ、一部はオンラインにより実施することを余儀なくされた（2022 年 10 月、すべての FFA 加盟国において渡航制限の解除が確認された。）。

### 2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

#### ① FFA 加盟国のかつお・まぐろ産業を含む自国水産業の開発・投資促進に関する助言及び情報提供

零細漁業者が漁獲するマグロ類を原料に、調味料、空き瓶、圧力鍋を用意するだけで常温保存が可能な瓶詰製品ができる瓶詰まぐろ製造技術指導プロジェクトを立案・実施し、ホニアラにて FFA 加盟国行政官、漁業者・水産加工業者、教育関係者、FFA 事務局職員等を対象にワークショップを 9 回開催した。また、製造工程や食の安全性、保存性を解説した Bottled Tuna Workshop Guide を作成、FFA のウェブサイトで公表した。

#### ② FFA 加盟国のかつお・まぐろ漁業の資源管理に関する助言及び情報提供

日本のまぐろはえ縄船の水揚げ数量や魚価情報を収集し、FFA の統計情報の一部として FFA に提供した。

#### ③ FFA 加盟国の国際的な義務（地域漁業管理機関の管理措置を含む）の履行にあたっての助言及び情報提供

対面開催となった WCPFC 年次会合（2022 年 11 月～12 月）等に参加し、情報収集を行うとともに、必要に応じて我が国水産庁及び関連漁業団体と緊密な情報交換を行い、日本代表団と

FFA 加盟国との調整役となった。

## ◆インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

2022 年度の専門家の活動は、FFA 加盟国において渡航制限の解除の動きが出てきたものの、引き続きコロナ禍の影響による海外渡航への影響は大きく、可能な範囲で必要な助言を行った。加えて、専門家自ら瓶詰まぐろプロジェクトに参画するなど、上位目標である日本と FFA 加盟国との漁業協力関係の一層の強化が図られた。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

FFA の目標である「かつお・まぐろ資源の持続的利用を通じた加盟国の社会的・経済的利益の最大化」を達成するための最適な方法が常に検討され、様々な形で適宜 FFA 加盟国へとフィードバックされる。

3. その他(ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等)

特になし。

## ◆持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

専門家の助言は、カウンターパートを含む FFA 事務局のノウハウの中に蓄積されていることから、プロジェクト終了後も FFA 事務局において有効に活用される見込みである。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

専門家の助言は、カウンターパートを含む FFA 事務局のノウハウの中に蓄積されていることから、プロジェクト終了後もその効果は持続される見込みである。

特に瓶詰まぐろプロジェクトは非常に好評で FFA 事務局職員だけでなくソロモン国立大学の職員も高い関心をもって技術移転を受けており、今後も継続されることが期待できる。

3. その他(持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等)

特になし。

以上